

ALLwatch Tips

2012年1月号
オムロンソフトウェア株式会社

「ALLwatch」は弊社が提供するモニタサービスの総称です。

漏電場所の特定方法

監視装置を取付けると漏電が発生したことは警報として通知しますが、何処で漏電が発生しているかまでは判りません。特に間歇動作の機器に漏電が発生した時は特定が難しくなります。今回は、弊社の監視装置を利用した漏電個所の特定の事例をご紹介します。

(1) 利用するセンサー

監視装置に付随の弊社標準 ZCT でケーブル径 22φ まで測定できます。それ以上太いケーブルの時はマルチ計測の ZCT40-SQ を使用して下さい。データは標準センサーと互換性があります。この ZCT を各機器の電源ケーブルに直接クランプして下さい。

ZCT40-SQ

コネクタはついていません、コネクタは下記の商品です。
日本圧着端子製
ハウジング：XAP-03V コンタクト：SXA-01-P0.6

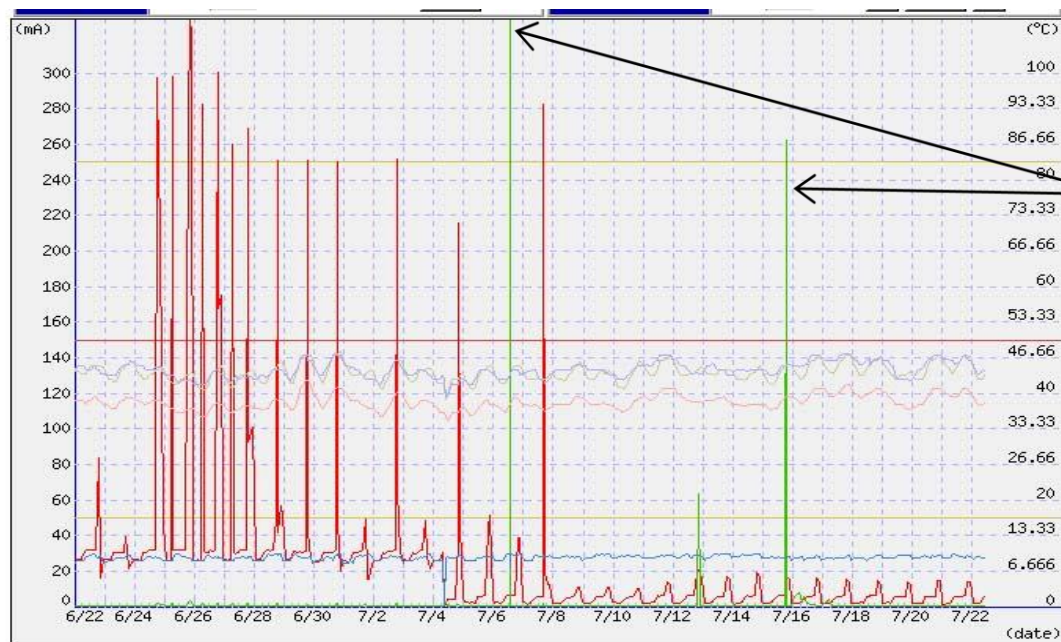


(2) 利用する監視装置

弊社の SW150LF8 を使用すると一度に 8 か所の計測が出来るので便利です。もちろん SW150LF や SW150PF/PFK も利用できます。

(3) 監視の実際

漏電が起きた時には各相の電流バランスが崩れて ZCT に出力が出ますので、この電流値で警報が出るように設定して下さい。弊社の機器では警報が出た時間と復帰した時刻が記録されていますのでこの時間に動作した機械が特定出来れば原因が判ります。



漏電警報の出た時

漏電の発生した状態のアナロググラフ

「アナロググラフ」は、M2M センサネットサービスのオプションメニューです。

この案内に関するお問い合わせは、下記のフリーダイヤルにて承っております。



0120-053-606 (土・日・祝日を除く 9:30~17:30 (12:15~13:00 を除く))